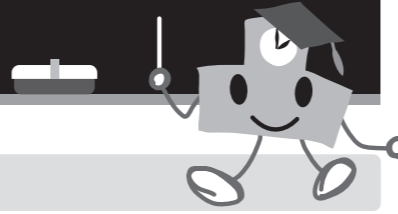


小学校の事例 厚別区 もみじ台南小学校

ゴーヤチャンプル給食の日にゴーヤが採れない。自然の摂理を知って環境を考える。

学年ごとの交流から人とのつながりを大切にす気持ちで環境と向き合いつつ、フードリサイクルを学ぶ。「食べることは命をいただくこと」。食育として事実と向き合うことで自然を理解。



内容 リサイクル堆肥で栽培した野菜を給食に

本校では2年前から、札幌市のフードリサイクル実践校として、リサイクル堆肥を利用した栽培活動を行っている。また、各学年が使用する教材園で栽培しているだけではなく、高学年(5・6年生)で活動する児童委員の「飼育栽培委員会」が、教材園の一部を活用してミニトマトやゴーヤ、キュウリ、ナスを栽培。収穫した野菜の一部は給食の献立として調理に取り入れられている。



キュウリを収穫しているところ

栽培活動は、各教科に位置付けて取組んでおり、春に6年生が低学年の教材園エリアの畑に、土とたい肥を混ぜる作業の手伝いを行っている。環境を考えることは人とのつながりを大切にするでもあり、そのような思いから、積極的に他学年との交流を図っている。

今後 体験を深めて自然を理解

「食べることは命をいただくこと」であるということをしきりと理解したうえで、食育に取組めるように、栄養教諭が指導を行っている。

例えば牛の命について、牛は牛乳を提供してくれ、食肉にもなり、皮を衣服等として活用されている、という事実を児童は学ぶ。児童はその事実と向き合い、命を大切にいただくことを学んでいる。



栄養教諭が「食」について指導

ゴーヤは元々、沖縄などの温暖な地域で栽培される作物であり、北海道での栽培を試みたが気温の違いなどから、なかなかうまく育たず、ゴーヤチャンプルにしようと思って育てたゴーヤが、給食の献立に入れた日に収穫できないということもあった。こういった体験をとおして、児童は自然を相手にするの難しさや大変さを体験できた。そして大変な苦勞をして栽培された食物だからこそ残さず食べなくてはいけないという思いが強くなるとともに、必要な分だけ料理を作るということもまた、環境保護につながるということも学んだ。



ゴーヤを取り入れた給食の献立

環境教育については、活動が学校だけで終わらず家庭でもできるように、継続性をもたせる工夫が必要である。これからの時代、地域にある川や土にどんどん触れ、地域の人とのふれあいや、自然と関わっていくための知識を得ることが児童にとって重要と考えている。



地域の方と一緒に植花活動

備考

近隣地区4小学校が2校に統合されるため、当校は平成22年度をもって閉校する。平成23年2月18日学校閉校式「お別れの会」を行った。

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

3年生は総合的な学習の時間「キラキラタイム」を活用し、毎年地域の町内会の「もみじ台南会」の皆さんと一緒に学校正面玄関前の街路花だんに花を移植する活動を行っています。「地域の方々とのふれあいをもと」「地域の環境をよりよいものにしよう」というねらいのもと取組んでおり、地域の方々が進んで身近な環境の整備を行っていること知り、児童の意識も高まっているように感じられます。本校は、平成23年3月をもって閉校となりますが、子供たちにはこれまでの経験を生かし、これからも地域の方々とのつながりを大切に、より豊かな学びへと発展していけるよう願っています。